

第二回 ISO/TC 225 国際委員会の報告

これまでの経過：

JMRQS を含む世界各国の市場調査品質管理基準を、ISO の新たな規格としてグローバルに制定する取り組みが 2003 年 7 月、スペインのマドリッドでの第一回テクニカル・コミッティ(TC)を皮切りにスタートした。

その後、2003 年 7 月から 12 月にかけて、規格の第一次ドラフトを作成、その後参加各国からのドラフトに対するインプット、および二回のワーキング・グループによる討議を経て、今回ドラフトの完成へ向けての第二 TC 会議がアルゼンチンのブエノスアイレスで行われた。

日本でも経済産業省の指導のもと、JMRA のクオリティ・スタンダード(QS)委員会を母体とした国内対策委員会(委員長：一ノ瀬裕幸氏)を発足させ、この ISO 化に対応してきた。(注：これまでの経緯については、JMRA NEWS 07 号を参照されたい。)

今回の第二回 TC 会議には、ISO/TC 225 国内対策委員会一ノ瀬裕幸委員長が所用のため JMRA 会長が代理出席した。

第二回 TC 会議の概要：

会議の日時： 2004 年 6 月 21 日(月)～6 月 22 日(火)

場 所： アルゼンチン、ブエノスアイレス(ドラフト起草リーダー国の一つであるアルゼンチンが今回のホスト役)

参加国： ● 事務局担当：スペイン

● パーティシペーティング国(P メンバー)より次の 9 カ国：

アルゼンチン、オーストラリア、ドイツ、日本、メキシコ、南アフリカ、スウェーデン、アメリカ合衆国、英国

● オブザーバー国(O メンバー)：イスラエル

● 合計 11 カ国 [P メンバーで欠席したのは、次の 8 カ国：アルジェリア、フランス、イラン、イタリア、韓国、オランダ、ロシア、セルビア モンテネグロ]

参加連絡機関： ISO 事務局、ESOMAR(ヨーロッパ世論・市場調査協会)、

WAPOR(世界世論調査学会)

[EFAMRO(ヨーロッパ市場調査団体連盟)、および CASRO(アメリカ・サーベイ・リサーチ機関協議会)は欠席]

第二回 TC 会議での決定事項：

- 規格における専門用語とその定義について、参加各国の合意を得た。保留された若干の用語修正に関しては、スウェーデンがドラフトを作成し、事務局に提出する。
- 規格の内容については、全体の約 3 分の 2 [8 章のうち 5 章の中途まで] に関し、参加各国の合意を得た。残りはメキシコシティーでのワーキング・グループ会議 (WG) [7 月 29 日～30 日開催] で討議する [日本は不参加の予定、日本の意見は既に送付済み]。
- メキシコシティーでのワーキング・グループ会議で合意に達した場合には、それを「国際規格ドラフト (DIS)」として、各 ISO / TC 225 のメンバーに提出し、3 カ月の間に文書を通じて承認を得る。
- この ISO/TC 225 の委員会は、マーケティング・リサーチとも関係が深く、TC として広範囲に渡って活躍している、統計的手法の応用に関するテクニカル・コミッティである ISO/TC 69 委員会 ("Applications of Statistical Methods") と連絡を密にする。

日本国内で必要なアクション：

国内対策委員会としては、P メンバー国の立場で上記の「国際規格ドラフト (DIS)」への諾否、およびコメントを、ドラフト入手後 3 カ月以内に TC 225 事務局に通知する必要がある。

今後のステージ：

(問い合わせ段階、Enquiry Stage)

DIS が TC 225 のメンバーで承諾されると、ISO 中央事務局 (ISO Central Secretariat) がこれを全ての ISO メンバーに配布し、賛否とコメントを求める [期間は 5 カ月以内]。そして TC 225 の P メンバーの 3 分の 2 以上が賛成し、反対が投票総数の 4 分の 1 に足りない場合には、DIS は「国際規格最終ドラフト (FDIS)」となる。

(承認段階、Approval Stage)

「国際規格最終ドラフト (FDIS)」は、ISO 中央事務局により全ての ISO メンバーに配布し、最終の賛否を求める [期間は 2 カ月以内]。そして TC 225 の P メンバーの 3 分の 2 以上が賛成し、反対票が投票総数の 4 分の 1 に達しない場合、国際規格として承認される。

(公表段階)

FDIS が承認されると、ISO 中央事務局より国際規格として公表される [編集上の若干の変更がある]。